

## マスクの効用

このたびの新型インフルエンザに対して、「頭脳」はともかく足りなかったものが2つある。「マスク」と「消毒薬」である。・・・ということは、いかにわれわれは「不潔な状態」で生活していたかを物語るものである。満員電車で平気で乗る・吊革に平気でつかまる・水道の蛇口を平気でひねる、などなど。手術室での「清潔・不潔」や小生の考え方からみれば、まあ、恐ろしいほどに無神経である。しかしながら、そんな純粹培養の人間ほど環境の変化についていけないから、別にかまわないのだが・・・

さて**マスクの効用**についてである。

1. インフルエンザ・ウィルスの保有者（感染者）は当然マスクの着用が義務づけられる。なぜなら、たとえばくしゃみをすれば、
- 2メートルも3メートルも飛沫（しぶき）が飛んでいき、それを知らずに吸い込んだ他の人に感染させる可能性が高いからで、大流行のもとになる可能性がある。しかも隙間のないように装着する必要がある。・・・これを本気ですると息苦しくなる。しかし、必須のことである。マスクなしで咳をするなら、せめて口を手で覆え！

では感染予防の意味で現在マスクを着用している人が多いところ

か、ほとんどの人がマスク着用である。では、これは有効なのだろうか？

もう 10 数年前のことになるが、出典も忘れてしまったけれども、感染者が他人に感染させないことに関しては有効であった。しかし、感染予防については明確な根拠が示されず、どちらかといえば、マスクを着用しているという心理的な効果のほうが大きかったような記憶がある。それでもマスクをつけていたことでごく一部であっても感染予防に意味があった、というならそれはそれで積極的に反対する理由はない。ただし、「正確な装着法で」の話である。

2. ずっと以前に、風邪引きでもないのにマスクを、しかも**黄金**の顎に装着していた人がいて、どうしたと尋ねると顎に腫れもののできたので絆創膏をはっている。これをかくすためだという。なるほどマスクもいろんな使い方があるものだ。顔中にガーゼをあちこちに貼り付けて、バカにされたか、といった人があったが。

しかしやっぱりマスクマスクマスクと横断歩道の向こう側に並んでいるとやはり異様な光景ではある。マスク教みたいなものである。

3. マスクの効用の中で、はっきりしているのが、**人相がわかりにくい**ことである。外国では、マスクをかけているのは**犯罪者**か

重症者だという。日本ではそこまで考えない。しかしある女性と話していたのだが、これにサングラスをかけたら銀行強盗やなあ。

4. 今回もっとも納得できたのが、電車の中での話。・・・ほぼ満員の電車の中では、若い人もいれば年配の人も乗っている。というよりオヤジが乗っている。うちの娘が言うのだが、マスク騒動のお蔭で今まで漠然と不愉快に思っていたことが明らかになった。「電車の中のいやな匂いがほとんどしない」というのである。はっきり書けば、オヤジのオヤジくささのうち臭いの幾分かが緩和された、というより激減した。

タバコを喫う人は、鼻と口の周囲にタバコの臭いがしみついている。これがマスクで覆われると、多少減じることになる。

呼吸をしなくてもそうなのに、これに加えて（当たり前のことだが）呼吸でもしたなら昨夜の酒の名残のアルコール臭が漂ってくる。「頼むからこっち向いて息せんといってくれ」と言いたくなるそう。おまけに、ゲップでもしたら昨夜の酒の肴の一部が残っていてそれを咀嚼でもしたら・・・書いているオレがオエーッとなりそう。これに加えて全身が加齢臭というオーラによって覆われている。・・・自分がそうだった時期があるから。だから

みなさん、今の「新型」のブームが去っても、電車に乗るときには、できるだけ「せめてものエチケットとしてマスクをかけようではないですか。」

今回の結論はこれです。

今年の秋冬には、第二波・第三波が押し寄せてくるといふ。しかも、現在より毒性が強く、それこそ、Outbreak（適切な訳がないのだが、突然の伝染性疾患の集中発生などと訳されることが多いようだ）が訪れてくるといふ。その Outbreak の前にいろんな意味で、「マスクをかけよう！」をスローガンに・・・

因みにワタシはマスクをかけないようにしています。理由はいくつかあるのだが、一言で言えばヒゲが見えなくなるからです。

すでに述べたように、われわれは不潔を不潔と思わずに生活していて別段不自由を感じることもない。で、そういう状態を生き延びた者だけが適者生存とみとめられるのである。・・・ここで気楽に好きなことが言えるのも、きわめて恵まれた環境にいるからで、たとえばアフリカ諸国の飢餓や虐殺などをみれば、「誰が新型インフルエンザを日本に持ち込んだか？」などとバカなマスコミが騒いでいられるのも平和ボケ・脳天気といえはいえる。 2009.05.30.